

令和８年度ヨコハマ市民まち普請事業 第122回部会 会議録	
日時	令和８年７月１１日（土）10:30～16:20
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員）川原部会長、植松委員、小川委員、後藤委員、鳥海委員、肥後委員、松村委員 事務局）横浜市：光田、阪本、安藤、道明、福田 市民セクターよこはま：加世田、山田、福島、鈴木 横浜市住宅供給公社：都出、隅、土屋、高橋
開催形態	公開（YouTube での LIVE 配信含む）
議題	令和８年度ヨコハマ市民まち普請事業１次コンテスト １ 開会 ２ 整備提案の発表 ３ 審査員による提案発表を踏まえたポイント整理 ４ 審査方法の説明 ５ 公開議論・質疑 ６ 公開投票及び結果発表 ７ 講評
決定事項	２次コンテスト対象提案として以下の提案を選考 【整備提案名】＜提案グループ名＞ １ 【みんなで育てるコミュニティ畑で多世代の居場所づくり】 ＜ヨコハマ小麦部ネクストステージ＞（都筑区） ２ 【人と人をつなぐカフェ「ほっとスプリングス」】 ＜食でつながるコミュニティ拠点を作る会＞（瀬谷区） ３ 【途中のアトリエと静かな縁側の渦のかたち】 ＜桜ヶ丘とさかのか（toSAKAノKA）＞（保土ケ谷区） ４ 【若者の居場所&商店街活性化新拠点－空ちゃ別館整備－】 ＜空ちゃ別館づくり隊＞（港北区） ５ 【つながりみまもる広場】 ＜さわやか港南＞（港南区）
審査基準	１ 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ ２ 意欲 ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲 ・グループメンバーが目的を共有したうえで、持てる力を出し合い、提案の精度を高める活動に取り組む意欲 ３ 公共性 ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度 ・活動を地域に開きながら、広げる又は深める姿勢

選考結果	
選考団体（委員講評順）	委員講評
【提案名】 みんなで育てるコミュニティ畑 で多世代の居場所づくり 【提案グループ名】 ヨコハマ小麦部ネクストステージ 【投票審査員数】 7 人 【得票数】 14 票	・様々な課題を抱えこれからますます注目・見直される農的な活動を、地域の皆さんがコミュニティ畑として、活動・活用できるということに希望を感じている。 ・地主との関係をうまく築きながら、関係団体と共有するビジョンを大切にし、土地にあまり負担がかからない形で整備を考えてほしい。 ・法律上の制約があり、今後様々な調整が必要になってくると思うが、丁寧に計画を作り工夫してほしい。都市農業を支えるほかの地域にとっても参考にしたいような実践例になると期待している。 ・地域に開かれた活動として展開していこうという考え方が見えたのが印象的だった。近隣の小学校や地域の神社などとも連携し、地域資源を生かしながら活動を展開していってほしい。
【提案名】 人と人をつなぐカフェ「ほっとスプリングス」 【提案グループ名】 食でつながるコミュニティ拠点を作る会 【投票審査員数】 7 人 【投票数】 11 票	・2回目の提案ということで、前回の審査員の講評をかみ砕いて今回の提案に反映していたことがとても印象的だった。 ・2次コンテストでは「こんなことをしてきた」「こんな仲間が見つかった」という報告・発表をしてもらうことを楽しみにしている。 ・過去の整備事例から学び、自分たちで取り入れられるところを取り入れて今後の整備計画を立てることでよい提案になると期待している。 ・食を通したコミュニティづくりは今までも多くあるが、それだけでは提案力が弱いと思っていた。掲示板の話やハブ機能を持たせていくことなどそういった機能をデザインに反映させ深めていくことで、このメンバーならではの独自性が明確となった提案になっていくと思う。
【提案名】 途中のアトリエと静かな縁側の渦のかたち 【提案グループ名】 桜ヶ丘とさかのか（toSAKAAnoKA） 【投票審査員数】 6 人 【投票数】 8 票	・これから、地域で活動を周知し、広げて仲間を増やしていくと思う。その広がりやがどれだけあるのか未知数な部分が多いが、期待している。 ・横須賀での実績をもとに、保土ケ谷でできることをさがそうという姿勢や、マイナスの面をうまく引き出してプラスの面に転じていこうという姿勢が強く見えたので、今後期待している。
【提案名】 若者の居場所&商店街活性化新拠点ー空ちゃ別館整備ー 【提案グループ名】	・すでに地域のコミュニティ施設として成果を上げている本館の実績を基盤に、そこで不足している機能を別館に求めるという提案は説得力があった。 ・学校教育の中だけで、子どもたちの多様なニーズを満たす時

空ちや別館づくり隊 【投票審査員数】 6 人 【投票数】 10 票	代は終わっており、地域密着型のスペースを必要としている子どもたちも多いと思われ、時勢にかなった提案だと思った。 ・整備しようとしている別館に来ると、没頭する仲間ができること、それを体験すると成長できるという実感が得られることにどうつながるのか気になった。プログラムや場所の使い方も含め、イベントを行っても良いかもしれない。 ・夢中で没頭・没入する活動のその先のイメージをどう作っていくのかは、施設運営の在り方に直接的に影響を与えるため、ニーズ発掘という方向性とは別に、彼らの潜在的な欲望を先取りできるとよいと思う。 ・今後の試行錯誤も見据え、完成形ではなくニーズに合わせて調整しながら新たなサービスや設備を考えていくという目的を持った組織を考えているところが素晴らしいと思った。
【提案名】 つながりみまもる広場 【提案グループ名】 さわやか港南 【投票審査員数】 7 人 【投票数】 8 票	・次世代につなぎたいという思いは見えたものの、実際の姿が見えてこなかった。また、今回の提案で具体的に何をしたいか見えてこなかったため、助成金の使い道をより具体的に検討してほしい。 ・長年行ってきた活動を継続したいという思いは伝わってきたが、空間のイメージが伝わってこなかった。若い世代の意見も踏まえながら空間のイメージを具体的にしていきたい。 ・今までやってきた実績に敬意を表したいと思う。2 次に向けた半年の期間を次世代に引き継ぐ準備期間だと思って前向きに活動してもらいたい。
資料 (資料 1) 令和 8 年度横浜市民まち普請事業 1 次コンテスト整備提案集	